


1	日程	2017年9月14日
2	地域	立命館大学(京都) 創思館 403・404 教室
3	担当者	池田玲子 (鳥取大学) 金孝卿 (大阪大学)
4	講演形態	講演とワークショップ
5	主催 (招 聘・科 研)	主催：立命館大学大学院言語教育情報研究科 (多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト) 共催：科学研究費補助金研究基盤 C 一般 「外国人社員の異業種協働型ビジネスコミュニケーション研修プログラムの開発研究」 課題番号 17K02851 代表：金孝卿 (大阪大学)
6	テーマ (講演 タイトル)	協働の理念に基づくケース学習 講義1 (池田)「協働学習とケース学習」 ワークショップ1 (金)「ケース学習体験」 講義2 (池田)「ケース学習のためのコースデザインの提案」 ワークショップ2「ケースライティング」
7	内容の 概要	立命館大学の日本語教師をはじめ、周辺大学の日本語教師、日本語教育の大学院生、他県からの参加者もあった。 講義1では、今回紹介する協働学習としてのケース学習の理論背景とケース学習提案の背景について説明した。次にワークショップでは、ケース教材を使用して参加者にケース学習を体験してもらった。講義2では、このケース学習を実際に日本語授業で実践する上で、半期15コマのコースデザインの事例を紹介した。ワークショップ2では、それぞれの教師が担当する授業においてケース学習を実施する場合のケース作成のポイントを示し、今もっている情報や自らの体験を基にしたケースを作成してもらった。 本セミナーではこれを10分程度ピアで読み合いコメントし合う時間を持つことができたが、今後、ここで作成したケースをさらに修正しながら完成していくためのネットワーク作りを提案して、セミナーを終えた。
8	参加者	24名
9	担当者	ケース教材を事前課題として提示していたので、最初のディスカッショ

	の内省	<p>ンの開始はスムーズだった。ケース学習のディスカッションはどのグループもかなり活発な意見交換がなされていた。とくに印象的だったのは、留学生の院生たちの発言が非常に積極的だったことだった。自分たちもこのケースと似たような異文化衝突をすでに体験しており、日本人の視点とは違った捉え方があることを明確に示してくださった。講師である私たちも参加した教師たちにとっても、新たな気づきを与えてくれるものだった。</p> <p>ケースライティングの体験は、計画上では多少早急な課題かと思われたが、意外にもすぐに作成へと取り組み、ここでも留学生の院生たちが自らの体験をケースとして書き込んでいて、周囲にコメントを求めている様子が見られた。</p>
10	次回への課題	<p>プログラムのどの部分もやや時間不足を感じた。参加者からももっとじっくり取り組みたかったという意見があった。企画者からも次回は半日ではなく、午前午後とするか、あるいは2日間での実施の要望があがった。</p>
11	セミナーの様子	 <p>The photograph shows a seminar session in a well-lit classroom. An instructor is standing at the front, presenting to a group of students. The students are seated at long tables, some looking towards the instructor. A whiteboard and a projector screen are visible in the background. The projector screen displays a list of points in Japanese, including '1. 参加者の期待を考慮して実施する。' and '2. 参加者の期待を考慮して実施する。'.</p>

